



(第37号)

発行所 〒260-0853  
千葉市中央区葛城1-5-2  
県立千葉高等学校同窓会  
印刷所 千葉市中央区都町1-13-16  
TEL. 043-233-9671  
有限会社 プリントピア

# 我が母校、百三十年の軌跡

— 新たななる千葉中の誕生を祝して —



同窓会会長 霜 礼次郎

明けましておめでとうござ  
います。同窓の皆さまがたに  
は、さぞかし素晴らしい新年  
を迎えられた事とお慶び申し  
上げます。

今年、創立百三十年周年を  
迎えるにあたり記念式典・記  
念事業は、特に企画してはあ  
りませんが、何はともあれ、  
中高一貫教育の方針として、  
母校に、千葉中学校が併設さ  
れる事になり、二十六倍と言  
う大変な人数が県下より受験  
されたと言いう事でありませ

母校、旧制千葉中学校が創  
立された当時は、まさしく、  
明治維新直後の事で、明治新  
政府は、近代国家、日本のリー  
ダーとなるべき教育の目標を、  
中学校教育に求める事になっ  
たと思われま

以来、母校は、幾多の人材  
を世に送り、日本は基より、  
世界を見つめる人材が、この  
葛城の大地から巣立って行き  
ました。おそらく当時の先輩  
は、新しい日本国家を形成す  
るといいう、大きな希望と夢を

膨らませて、一所懸命に努力  
されたと思われま

急速に西洋文化を移入し、  
大國に、追いつき、追い越せ  
の精神で、接近を測りました。

その結果として、日清、日  
露の大戦に打ち勝ち、日本民  
族にとつては、大変な自信と  
なりました。

さらに、日中戦争、太平洋  
戦争に於いては、多くの犠牲  
は伴いましたが、日本の国力  
を評価する時に、後半の大戦  
では、良い教訓となりました。  
しかし、欧米の列強との接触  
により、更に新しい文化の移  
入を計る事ができました。

さて、すでに終戦から六十  
年という月・日がたち、我が  
國は、民主国家として再出発  
するにあたり、教育制度の変  
更に基つき、旧制千葉中学校  
は、千葉高に変わりました。

以来、六十年に亘り、真の  
平和國家を求めて、前半の同  
窓諸兄の努力と同様に、ある  
いはそれ以上に頑張つて、世

界で一、二を争う経済成長に  
至りました。

幕末に来日した、ペリー提  
督が報告したように、日本民  
族は、勤勉性と器用さを持つ  
ております。この特性を生か  
して、今後、より良い生活環  
境を作るべく、地球レベルで  
努力をする必要が出てまいり  
ました。

中高一貫の新しい制度は、  
おそらく以上述べたような、  
世界で最もふさわしいリー  
ダーを養成する事を念願とし  
て、新設されたものと確信を  
致します。

百三十年周年の節目に、これ  
から新設される新たななる千葉  
中学校の使命を、私達は見守つ  
て行きたいと思っております。



## 私の千葉高



校長 村山元信

## 一、私と千葉高

昭和三十九年は東京オリンピック開催の年、その四月に千葉高に入学した。

大野前校長や、華道講師の村上やよいさんと同じ、船橋市内の宮本小・宮本中出身で、中学校三年間勉強そつちのけでクラリネットに夢中になっていた。学力検査の前日でも、先生方に叱られながら、遅くまで部活動をやっていたように思う。その後も卒業式当日まで部活動を続けた。

入学学力検査が九教科あった時代である。案の定、模擬試験ではいつもできていた「理科」を、こともあろうに千葉高本番で失敗した。あせっていたのであろう、とんでもない勘違いをし、大問の最初から

間違っていたために、それに続く小問は全滅、自己採点での予想外に低い点数。千葉高は落ちたと思った。私立は受けていなかった。母に言わせると、発表の当日まで、御飯も喉を通らない状態であったという。前日まで、部活動をやっていれば、そんなことは当り前だと自分でも思った。今も当時の担任に会うたびに、合格を聞いた時の母の顔は忘れられないと言われる。母は何も言わなかったが、金がない家に育ったので母に本当に心配をかけたと思う。

## 二、私と書道

何とか合格したその春休みに、一枚の葉書が舞い込んだ。当時、書道の教諭として勤務

していた種谷久太郎(扇舟)先生からである。入学前に、学校に提出する「芸術選択科目希望調査」では、音楽、工芸、美術、書道の順で、書道は第四希望であった。私自身は、書道への気持ちはすっかり消えていたが、

種谷先生は、私の小学校時代の書道展の受賞状況を逐一把握していたことを後で知る。種谷先生は、東京オリンピックでは、バスケットボールの役員として活躍する程のバスケットボール界の重鎮でもあったが、書家としても更に高名な先生であった。

入学してみると、その先生から、「調整の結果、君は「書道」に」と告げられた。芸術の授業に渋々出ていくと、授業の合間に「部活動も書道に是非」と勧められる。種谷先生の言わば「実験」への意気込みに触れ、書道部へまた渋々。その後は、もともと嫌いではないこと、やり出したら中途半端にしない性格、夢中で取り組むことに。勉強もおろそかになるくらいのもめり

込み様であったと思いつく。卒業直前の書道大会では、内閣総理大臣賞。佐藤栄作首相の色紙は今も大事にしている。

当時の書道部には今では考えられない程の部員が溢れていた。テレビ東京『なんでも鑑定団』書跡鑑定の増田孝氏は千葉高書道部同輩である。また後輩には、ノーベル医学生理学賞利根川進博士夫人の利根川(旧姓吉成)真由美さんもいた。そういう中で、増田氏のように「書」を専門とする大学選択をする者が、毎年のようにいた。私は、理系に進んだが、しかし未だに「書」から離れないでいる。「書」の深遠な世界の虜になっているのも、種谷先生からの三年間の凝縮された教えの大なるがゆえである。

## 三、再び千葉高へ

教員になってからも、理科・数学と廻りめぐった末に県の書道担当指導主事を務め、今春種谷先生が情熱を注いだ母校の校長として舞い戻った。今の門標

## 同窓会・母校に 更なるご協力を

同窓会事務局長 阿佐幸雄

(昭和三十五年卒)

署名集めへのご協力有難うございまして

昨年9月県議会へ「県立中学校を成功させる会」が請願を行ないましたが、母校同窓生への署名集めには、各年度理事の方々の大変なご協力により、5096名の署名を集めることが出来ました。

9月26日の県議会開会日に無事田久保県議会議長に提出し、10月11日に採択されました。今後は注意深くその後の推移を見

は、金子聴松氏の筆になるが、当時の門標は、木の板に直接種谷先生が書かれた唐虞世南風の楷書のものであったと記憶している。いま玄関には、平成十四年千葉高二七会寄贈の大作『感

謝の一生』がある。また、最近になって剣道部の部室から、昭和三十三年に楷書で書かれた「剣道訓」がぼろぼろの状態で見えられ、表具して剣道場に掲げてある。これらの作品に接し守って行きたいと存じます。

### 同窓会活動のご紹介

私たちの同窓会がどのようなことをしているのか年間の活動を簡単に報告したいと思ひます。

まず、同窓会の年度は暦年です。従って平成19年度は昨年1月から始まり昨年末で終わっています。

1月：同窓会理事会を開催致しました。

2月：同窓会会報の発行と同窓会総会を開催しました  
が、総会後の懇親会は昭和40年卒で企画催行しました。

なお、理事会や総会に皆さんにお渡しする議案や報告書の作

ながら日々校務に臨む私を一番見守ってくれているのは、多岐にわたる実践を残した教育者としての種谷先生であるかも知れない。

いよいよこの四月には、同窓

成と印刷を校内理事が全員で行なっています。

3月：卒業生に対する卒業証書を入れる筒と卒業生名簿を贈呈しました。

6月：1年生に対する同窓会OB（還暦年度より1名）による講演会を開催しました。

7月：名簿編集委員会を開催し、130周年版名簿の発行を決定しました。

10月：2年生に対する同窓会OB（昭和57年～平成元年卒の9名）による分科会形式での講演会を開催しました。

11月：同窓会報の原稿依頼を各年度理事に発送しました。

会の皆様にこれまでさまざまな形でご支援をいただいていた県立千葉中学校が併設される。施設設備面では今後の充実に俟たれるが、新たな伝統を築いていきたい。

12月：理事会と総会の案内を全理事と役員に発送しました。

以上が昨年の同窓会事務局として関わったものです。

2回の講演会とも講演会委員会の豊田委員長（昭和57年卒）が企画し、総合学習の担当教師と打ち合わせを重ねて実施しています。

今年度は以下の2つの課題が加わります。

平成21年2月に発行する130周年版名簿の発行準備をしていますが、各年度ごとの名簿管理者にご協力いただき、今後全員にお手紙を差し上げる予定です。名簿の注文受付と住所の確認作業がいかに安く確実に出来

るかが課題です。  
 もう一つは4月から開校する中学校でも高校で行なっているような講演会を開催することです。初年度の今年は年間10回程度を予定しています。これも講演会委員会が中学校の先生達と打ち合わせながら行ないます。  
 高校では火曜日の午後3時すぎから総合学習という授業でしたが、中学校では土曜日に授業ではなく行ないます。どのような講演になるのかこれからも皆さんの協力が必要になってきます。  
 多くの方々から協力の申し出が来ており、心強く思っています。これからも母校のためにご協力をお願いいたします。

ご存知の方は居りませんか？

## 歴代同窓会長の関係資料を探しています。

このたび130周年版同窓生名簿に歴代同窓会長一覧を掲載することになり、とりまとめをしておりますが資料が乏しく難渋しております。つきましては同窓各位におかれましてお手元に役員候補名簿・会長名の載った総会次第等がありましたら、電話043-227-7434・FAX043-221-4014竹田徹先生までお知らせ戴きたくよろしく願いいたします。なお、手元資料を次のとおりお示しします。名簿編集委員 鈴木定雄(昭和25年卒)

### 歴代同窓会長

代	氏名 (卒業年)	期 間	出 典 不 明 箇 所
初	永井準一郎 (明34)	自昭和21年12月 至昭和23年3月	同窓会事務所関係文書編冊綴 自・至の日
二	須田 滋 (大7)	自昭和23年4月 至昭和25年3月	同窓会事務所関係文書編冊綴 自・至の日
三	湯浅泰仁 (大10)	自昭和25年4月 至昭和50年1月	同窓会事務所関係文書編冊綴 自・至の日
四	中台清吉 (大14)	自昭和50年2月 至昭和51年2月4日	自は同窓会事務所関係文書編冊綴、至は創立百年199頁。自の日
五	松戸節三 (昭7)	自昭和51年2月5日 至	自は創立百年206頁 至の年月日
六	飯豊周二 (昭16)	自 至平成10年2月13日	至は平成10年役員候補名簿 自の年月日
七	霜 禮次郎 (昭31)	自平成10年2月14日 至現在	平成10年役員候補名簿

### 会の名称の変遷

名称	千葉縣立千葉中學校同窓會	改称	千葉県立千葉高等学校同窓會	改称	千葉県立千葉第一高等学校同窓會	改称	千葉県立千葉高等学校同窓會
設立	昭和18年12月	時期	昭和23年11月3日	時期	昭和33年7月26日	時期	昭和38年11月1日
出典	創立百年104頁名簿写真	出典	創立百年125頁会則発表	出典	創立百年150頁改称	出典	創立百年163頁名簿発行

# 学年短信

## ●昭和八年卒

安田 衛

昭和八年卒業の昭八会は永年続けて千葉駅前「日本海」で行われてきたが、本年十月に加地禮太君が亡くなり、吉野平八郎君は病気のため欠席することとなり、残念ながら本年以降中止のこととなった。九十才を過ぎてからの健康法は、各自に適した訓練を行うことが大切と思われる。

## ●昭和十一年卒

佐瀬喜一

昭和十一年三月、一七四名の卒業生の集い、「土葉会」も出席者の漸減により閉幕して数年。生き残った同志と、手紙、電話等で旧交を何とか暖めているのであるが、その同志も、寝たつきりか入退院をくりかえしている状態。まだまだ頑張ろう

と数名の同志と励まし合っているやさき、三月に「市毛徳夫」、八月に幹事の「新藤栄一」両君の他界に接し、悲しさを禁じ得なかつた。生き残った同志も卒寿（九十才）も間近か。私事ではあるが私の家内も五年位前から車椅子の生活を余儀なくされ、私も老骨に鞭打ち看護しているが所詮「老々介護」といったところ。市内の中央町より昨秋籍を移した「更科」で老妻と二人、段差のない平屋でどうか生活している現況である。でも残り少ない人生の一日一日を大切に、朝に日の出をおがみ、床につく時、無事にすごせた一日に、「ありがとう」と感謝している毎日である。

## ●昭和十二年卒

古川 芳

千葉中、昭和十二年卒業生百六十八名。この会を十二会と名付けて、同級生の会を実施して参りました。若い頃は、受け持ちだった先生にも出席して頂

き、思い出話に花を咲かせた事もありました。二年間隔位で続けてきました。が、年を共に出席者も少なくなり、平成十五年十月に、京成ホテルに於いて実施、出席者十二名でしたが、旧交を温める事が出来ました。私達も八十八才の高齢のため、卒業生百六十八名の内、既に亡くなられた方が百人余り、消息不明が三十名と現存者も少なくなり、元気な人も又少なく、誠に残念です。更に次の四名の方の死亡が確認されました。謹んで御悔やみ申し上げます。

## ●昭和十三年卒

井原恒二

梅田陸喜

村瀬正光

## ●昭和十三年卒

原田正夫

卒業時一八〇名が戦死者を含む

め一三六名が逝去、住所不明が十四名現在判明者が三〇名になつてしまつた。年に二回近況報告及び会合をやるうと約束して十九年度は五月と十月に行つた。今までの船橋市稲荷屋に代え、足腰の悪い友でも参加出来る様、千葉モノレール県庁前駅下車〇分の「菜の花」で開催することにした。定刻が待切れず一時間も早く到着、学校を見て来た友もいた。到着順に乾盃談笑大いに始まる。定刻十二時、まず物故者に対し黙祷、石原会長の挨拶、司会者の経過及び会計報告、正規の乾盃で総会が始まつた。一時談爨、自己近況報告、一人でいきまいてる人、全然しゃべらない人、随分変わったなと思われた。やがて時間も迫り校歌、応援歌を斉唱、三々七々拍子で来年の五月木曜日全員参加を約束して解散した。



●昭和十七年卒

篠崎兵衛

総会は十一月十日、出席は二六名。ペリエホールで三時間、名残り尽きない会が続いた。昨年予告した通り、会員の高齢化と終身幹事の過剰負担等により今回を以って十七年会を解散した。今後は近隣・有志で交誼を続ける事となった。

失われた青春という人がいる。しかし我々は千葉中十七年卒という誇りとよしみを持って明るく意義ある人生を過したと、会員全員が思い出話を披露し時間を延長しても閉会がなかなか出来なかった。永年つづいた会の運営に功のあった久保・早山の両故人も満足してくれる事と思う。

今後は母校の一層の繁栄と、同窓会の発展充実をひとえに祈るだけである。



●昭和二十年五卒(新葉会)

須藤俊夫

千葉中出てから六十二年、それぞれの歴史を刻んで新葉会会員も八十歳を迎えた。暑く長い夏を越した十九年十月十八日に『傘寿記念総会』をオークラ千葉ホテルで開催した。

初参加者も含め、歳相応の健康を保持する四十三名(当日二名欠席)が参加、定刻午後一時半に開宴、物故者八十一名(会員二百六十四名)に黙祷を捧げ、世話人会代表の挨拶、最も遠く(広島)から参加したA君の音頭で乾杯して談笑タイムに。

会員の提案もあり近況自己報告。やや脱線ぎみだが学生時代の逸話披露から始める人、厳しいガン闘病の体験を明かす人、激動の人生を熱く語る人など二時間余で全員終了。応援団長を自認?するS君の指揮で千葉中学校校歌を始め応援歌など次々斉唱、会員多数の声で二年後の再開を決定、互いの健康を誓って四時すぎ散会した。

●昭和二十年四卒(緑寿会)

猪田昭三

我々六十回生は緑寿会と称し毎年六月十日前後の日曜日に総会を開き昨年は六月十日に「ほてい家」に二十六名参加。此の所、急に四十名から三十名と減り多病息災、近況報告があつて和氣藹々、来年の日程を決定。顧みれば太平洋戦争勃発の年に入学し四年生の二学期から学徒勤労動員令(通年)にて鉄道省千葉機関区等に通勤、空襲による犠牲者も出た。昭和二十年三月、戦時特例により繰上げて先輩の五年生(五十九回生)と同時卒業、同年八月十五日敗戦。焼土の(オキユパイド・ジャパン)から復興へよく頑張った。今年傘寿の年に当たり総会は六月八日を予定し事務局の板橋恆君が企画を練っている。

●昭和二十一、二十二年卒

齋藤喜久三

卒業還暦同窓会、

参加者激増!!

雨が降っても槍が降っても六月第一土曜に集ること三十五年、参加者は一時70人を数えた



が、最近では35名位になつて来た。

元氣印の当会も平成21年には傘寿を迎えるので己むを得ない、挽回策として昼間の午後2時より4時迄とした、これなら足許の明るいうちに帰宅できると家族にも大好評、嘗ては二次会迄やり、午後11時過ぎに終了したのは夢の様、今年には五十名の参加となり大盛況、例の如く校旗を振りかざし全員起立で校歌、応援歌の大合唱。初参加の35年振りの石渡君はこれなら毎年参加したいの言葉は如何に楽しかったかを物語る。開会のご挨拶を頂いた常連の早川先生は「これからは君達の本当に人生を楽しむ時だから、私より若いのだから背筋を伸ばし私を見習いなさい」のピンとしたのは一同大拍手。写真の女性は内田秀保君（機械体操部）が脳梗塞で出席出来ず同窓会皆勤賞の記録を失うのが残念と代りに娘さんが来てくれたのには感謝。

年々物故者が数名出るが、残された者で同会を盛り上げたく、平成21年の傘寿同期会に向けて

元氣での再会を約した。中江利忠君が十四年振りときれる日本新聞文化賞に輝いたのは我が同期の誇りである。

●昭和二十三年卒、二十四年卒  
(葛城美美葉会)

安田敬一

平成十九年四月二十一日、プラザ菜の花にて、今年も盛大に葛城美美葉会が開催されました。

母校より村山校長先生を迎え、中高一貫校への熱い思いを伺いました。恩師早川、篠崎先生とともに和やかな例会でした。

毎年、お見えになられた安西先生の遺徳を偲びつつ、お元氣な早川、篠崎両先生から懐かしいお言葉を拝聴し、古き良き時代を思い、未来の夢を語り合いつつ、時を忘れ歓談しました。

いよいよ、来年は、卒業後60周年を迎えることを記念し、母校訪問が決議されました。平成二十年四月は、例会前に多くの

同期の諸兄が、母校正門前に集まることでしょう。

併せて、記念の文集も刊行することとなり、手作りで接待、武田、渡部三君が、作成する予定です。

千葉県立千葉中学校創立から一三〇年を迎える平成二十年、母校の限らない発展を祈りつつ葛城美美葉会会員一同元氣よく校歌、凱旋歌、戦歌で閉会となりました。

●昭和二十五年卒

矢島 肇

個人情報問題が生じてから急に名簿なるものが姿を消しつつある。しかし、個人の集りに名簿は欠かせない。名簿整理の良し悪しが会の成功を左右する。千葉高同窓会名簿も時代の要請もあって今回を以て姿を消すと聞いている。これからはより一層同期会名簿の充実が求められる。我々二十五年卒もハラスの幹事が同級生の近況を追って聞いている。と同時に全

員の希望もあって、入学時から卒業迄、一時であつても席を共にした友人も可能な限り探し求めて名簿に加えている。この中には学制改革によつて中学五年で卒業した友、戦時中疎開した友等多くの転校生がいる。この仲間達を「S」組と呼んで新しいクラスを作っている。

●昭和二十九年卒

中 進士

還暦後早くも干支の二回り

十二年前に還暦を迎えた福の会メンバーは、一部で二度目の還暦の年と話している。このため一昨年あたりから春秋の褒章や叙勲の受章者が出て、春の総会や秋の旅行会の折に記念品の贈呈や紹介が続いている。残念なことに逝去者や病床の仲間も出ているが、今年も定期的な会合以外に、忘年会・地域葛城会・世話人会等を開催している。

平成九年に始まった旅行会は今年も特別会員の早川先生を含めた二十一名が参加し、九月九

日に諏訪・霧ヶ峰方面に一泊二日で出かけた。秘境横谷峡宿泊・小海線乗車・ビーナスラインドライブ等を楽しんだ。特に印象的だったのは北八ヶ岳の白駒の池の散策。道路から十五分ほど登りの後の池巡りだったが、前夜の宴会の影響で数名がバスに待機。猛暑の名残の下でも元気に歩く女性方に対して、かつて



運動部で活躍した男性陣の弱音が目立った。今年の旅行会も反省会と忘年会を予告して、東京駅経由で無事に終了した。

●昭和三十三年卒

石塚 眞

同期会の報告

四年振りの同期会を昨年十月二十八日に千葉駅ビルのペリエホールにて、遠くは愛知からの二名が駆け付け総員七十二名の参加でした。

来年は卒業五十周年を迎えるにあたり、盛大に開催したい旨を確認した。

みささ会 (同期のゴルフ・コンペ)

会の名は昭和三十三年三月卒を語呂合わせで命名。初回は平成九年に十名で発足し、毎年三月、年一回の開催。今年の第十一回は三月十四日にヌーヴェルゴルフ倶楽部にて三

十名の参加のもと開催し、賑やかな一日を過ごすことが出来ました。

「同窓会報」は毎年船橋葛城

会のおり、拜読してましたが、一月下旬に突然のことと同窓会理事の同期生増田裕君より、毎日を暇にしているのではないかとこの思いやりか、同窓会報への投稿依頼があり、僣越ながら引き受けてみました。

小生は、発足以来の「みささ会」の幹事とここ数年は「船橋葛城会」の世話人を、合わせて「葛葉G会」(母校籠球部OB会のゴルフ仲間)の幹事を担当し、母校の伝統を誇りにしています。

先輩諸兄におかれては、お子さんはもちろん、今や中高一貫の時代を迎え、お孫さんの同窓生が生まれます(すでに現実かも)。三世代の同窓会が楽しみです。益々母校の偉大な歴史を感じます。

●昭和三十六年卒

田那村宏  
高師弘子

十月十四日。修学旅行再現のバスは東京駅から二十九名を乗せ河口湖へ向けて出発しました。Tさんの発案、Mさんはホテルの交渉。元校長がバスの手配、写真はSさん、会計のHさんとチームワークよろしく天候にも恵まれ、尽きることはない





お喋り。昼食の炉端焼で更に親交を深め、生憎富士山の五合目では霧に包まれましたが、美術館にも寄り、懐かしい河口湖ホテルへ到着しました。四十八年前の面影が残っていて青春時代へと一挙に駆け戻ったという訳です。翌日は窓越しに富士の雄姿を眺めつつ思い出多い白糸の滝で記念写真。和気あいあいの楽しい旅となりました。車内のどこからか「次は幻の関西旅行かなあ」という声が聞えてきました。

●葛の花会（定時制同窓会）

平野 孝

（昭和三十八年卒）

葛の花会総会は今年も6月の第2土曜日（6月9日）に、プラザ采の花において開催され、参加者は50名を越え盛況に終わりました。

定時制課程は、平成20年3月の卒業生を最後に廃止され、3年生2年生は新たに開設される生浜高校定時制課程に移管され

る由。寂しい限りであるがやむを得ない。せめて生徒に不便不都合を与えないよう当局にお願いしたい。

平成18年度まで長年葛城会の副会長を担当された増田忠彦（昭和26年卒）さんの後任には、葛の花会創立以来の事務局長から現在副会長として活躍されている永田忠以さんが後任として新たに選出承認された。

総会に続き懇親会では来賓の方々のご挨拶に続き、出席者の近況紹介を、佐久網（昭和42年卒）さんの名司会で進められ、和やかな一時を過した。

●昭和四十年定時制卒

OBS会幹事長 谷中勝美

昭和36年入学時の仲間で作った『OBS会』の今年の同窓会（16回目）は、中央バスのツアーを利用して四万温泉（宿泊・四万グランドホテル）で3月18・19日に開催しました。昨年に続いて1泊での旅行で8名の参加者があり

ました。

初日は酒蔵誉国光から月夜野びくどろパーク（見学）、宿泊では温泉三昧、そして夜の宴会と深夜まで語り合い楽しい一時を過ごし交流を深めました。翌日は古き良き時代の日本の故郷を再現した『かやぶきの郷』を見学しました。

また、来年も1泊で開催する事を皆で約束し解散しました。

平成19年10月10日 記

●昭和四十四年卒

森 茂

『戦後レジームからの脱却？』

戦後世代あるいは団塊の世代といわれる人々が、いよいよ第一線を退き始めます。「戦後民主主義」は、彼等（我々？）の努力でこの日本に見事定着したのでしょうか？

そもそも、戦後社会の枠組みを作り、戦後日本の政治・経済・文化の復興を担ったのは、団塊の世代ではなく、明治・大正生の人たちでした。

彼等は、二つの世界大戦と、年代によっては日清・日露の戦争、国民的な飢餓と貧困、極限状況でのエゴイズム、指揮官が責任を取らない時の破滅的な事態等など、人間の本当の怖さと恐ろしさを実体験してきたリアリストでした。

そのリアリストたちが、体験したあまりに多くの幻滅と償いの気持ちの上に、敢えて紡ぎ出した夢と幻想が「戦後民主主義」だったのです。



一つの社会制度に過ぎない民主主義は、社会の成員が「この制度を守ろう！」として支えなくては、いつでも崩れ去ります。

政治家の腐敗、官僚の墮落、有名企業のモラルハザード・「この社会はオレが支えなくても、誰かが支えてくれる」という怠惰な楽観者は、そんな「誰か」などどこにもいない、ということに早く気が付かなくてはなりません。

「戦後民主主義」を基礎づけた世代の人々の切実な希求を思い起こしながら、想像力を喚起して歴史と国際社会に学ぶことが、改めて必要な時代になりました。

※参考・内田樹著『疲れすぎて眠れぬ夜のために』角川文庫

※第四回同期会は、私達が還暦！となる2011年2月です。同窓会総会の当番学年でもあります。予定表に御記入下さい。

(2007・12・12記)

## ●昭和四十九年卒

嶋田政昭

四十九年卒の活動はいつもと同じようにまず、一月二日、同期三上君の実家「万菊」にて三十六回目の新年会を。十一月には一コ下の五十年卒の方たちと合同の同窓会を千葉市文化交流プラザにて、恩師依田・岩瀬・四ノ宮・三木・藤井・榎谷・吉野先生七名の恩師をお迎えして行ないました。吉野先生（現船橋二和高校校長）は三月に退職とのこと。私たちの現役時代には兄貴のような存在で、夜中歩き回る「夜行軍」にも一緒に参加してもらったり、京都の修学旅行でも、夜消灯後クラスの男子全員が部屋に集まり、先生も一緒に、好きな女の子を二人ずつあげたのですが、ついに先生は口を割らず（当り前か）懐かしい思い出です。私たちが教わった先生方は、吉野先生が最後で月日は流れているんですね。

十二月には第四十二回のダメオス（昔千葉高にいたノラ犬の

名）ゴルフコンペを五組で行ないました。

野球部の話を最後に。昨年の夏の大会でもって監督を引退しました。後任は体育の高橋好正先生（佐倉校OB・五十年卒）にお願いし、約八十年続いたOBが監督というのも終わりました。梅松屋のお父さん（内山先輩）や岩井先輩達から受け継いできた「生徒指導は部長先生技術指導は葛城倶楽部で」の伝統も崩れ、時の流れなのでしょう。でも高橋監督は指導力も人柄も立派で、昭和二十八年から遠ざかっている七度目の甲子園出場（二十一世紀杯あたりかな？）も期待できます。OBの皆さんも夏の大会は宜しくお願ひします。

## ●昭和五十年卒

園部 創

我が学年は平成19年11月24日に第3回の学年同窓会を開催した。前回から五年ぶり、49年卒の先輩たちとの合同開催で、J

R千葉駅前の千葉市文化交流プラザを会場とした。50年卒は70名ほど集まり、6次会まで進んでラストは翌25日の午前1時半。12時間たつぷりの酒菜と青春の思い出で大いに盛り上がった。卒業して32年、ずいぶんと時間は経っているのに、同窓会に行くと3秒で10代に戻っている自分がいて、メタボリックなどとつくに超えているオッサンが当時の若者言葉で語り合っているのは実に面白く、楽しい。お互いかなり違った人生を歩んだはずなのに、相通じ合うことができる。この千葉高の友とまた5年後に、互いが刻んだ時間について語り合いたいと思う。

## ●昭和五十一年卒

松戸さち子

二〇〇五年から毎年秋に同期会を開いています。二〇〇七年も十一月十日、東京・神楽坂に六十八名の同期が集いました。私たちは一九五七〜五八年生まれなので、二〇〇八年には全員

が五十歳となります。今回の同期会では、孫の誕生した同期がいることに一同が驚き、一方で幼い子のいる同期もあり、五年の人生にも多彩な歩み方があるのだということをしみじみと感じた集いでもありました。

幹事は今年はA組、来年はB組というように、リレー制です。このような形で同期会を続けていければ、青春時代を共有した仲間たちと一緒に年を重ねていくことができます。末永く続けていきたいと、多くの同期が考えていると思います。

●昭和六十一年卒

増田 淳

「邂逅」とは、この広い世界で偶然に出会い、束の間の時間を共有する、人生のドラマチックな瞬間である。例えば高校生活の三年間は青春期における最大の邂逅だったと思う。卒業後、何故かずっと付合っているやつもいれば、二十年経って外国のホテルのバーで再会するやつも

いる。音沙汰は無くともきつと元気なはずだ、そう思うから私も元気でいられる。

七月、曾山恵理さんが亡くなった。二児を抱えながらの闘病生活が彼女自身のブログに綴られている。一年生の時、鹿兒

支部だより

☆船橋葛城会

世話人 蛭田 隆

(昭和三十六年卒)

平成一九年度例会は、五月二七日フローラ西船にて、村山元信新校長にご出席いただき開催されました。出席者は、残念ながら一〇〇名には達しませんでした。いつもどおり和やかな例会となりました。次回は、記念すべき第三〇回例会となります。現在、世話人会を中、心に企画を練っているところです。一九七九年四月の創立総会により誕生した当会の当初の活動を記念誌等で見てみますと、今とは違った躍動感が強く感じら

島の高校から編入、席は私の斜め前だった。よく宿題を教えてもらった。彼女と私の関係はそれ以上発展することは無かったが、それも一生の記憶に残る邂逅。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

れます。世話人始め会員の皆さんの意気込みやテンションが相当に高かったものと思われま。当会も若手会員に魅力ある会としていくには、私たち世話人が先ず率先垂範、若さと情熱を持つことが大事ですね。

☆東金葛城会

岸本雅邦

(昭和三十九年卒)

第二九回東金葛城会の総会は、平成十九年四月七日に東金八鶴亭にて開催されました。当日は二十一名の会員の皆様に出席をいただき恒例となっております。まず八鶴湖の夜桜、花火大会、湖畔ライトアップ等東金の花見をたっぷり楽しんで有意義な時を過ごす事が出来ました。

本総会で新会長に木村卓氏(昭和三十一年卒)を選出しました。

通称キムタク会長です。永年の教育界での御経歴を基に会の発展の為に御尽力下さるものと思えます。次回開催は平成二〇年四月五日(土)の予定です。

当日はゴルフコンペも併せて開催し懇親を深めたいと思えます。なお山武郡及び東金の千葉高卒業生で連絡もれ等お気付の点がありましたらお知らせいただければ幸いです。

連絡先

岸本雅邦

TEL 0475 (52) 5507

☆佐倉葛城会

山田敏夫

(昭和四十二年卒)

平成十九年度佐倉葛城会は、佐倉市ユーカーが丘のウイシュトンホテルにて開催しました。当日は、片岡会長を始め二十二名の会員が集い、成田葛城会からも、真鍋会長以下六名の参加を頂き、計二十八名で和やかな

ひと時を過ごしました。

例年は、会員の中から講師を選んて講演をお願いしていましたが、今回は、会員相互の懇親を一層深めて頂くことを願って、会員それぞれから、近況報告を兼ねた自己紹介をして頂きました。

今後の地域葛城会の活動を活発にしていくには、昭和五十年代以降と平成の卒業生の協力が必要と感じています。

☆成田葛城会

真鍋 溥

(昭和三十一年卒)

第五回成田葛城会定期総会を平成十九年十月十三日ひかたや第二支店にて開催致しました。今回は霜同窓会々長、村山千葉高等学校々長、大庭PTA副会長にご臨席頂き、中高一貫校に向けてのお話等頂き楽しい会で行っていましたが、日程が佐倉のお祭りと重なり今回は成田葛城会単独で行いました。また今回より成田市、富里市、栄町、

本笠村、印旛村在住、又は勤務者と地域を抜け、また他地区の方でも入会希望者は入会して頂く事に致しました。

連絡先

真鍋 溥

成田市橋賀台一の十五の四

TEL 0476 (27) 3535

石川江巳

成田市山之作一六四

TEL 0476 (22) 0885

★寄付者

昭和二十年四卒(緑寿会)

20、000円

昭和十七年卒同期会

50、000円

昭和三十九年卒同期会

100、000円

昭和四十年卒同期会

100、000円

●同窓会への年度や支部、個人からの寄附を受付けています。

振込先・千葉興業銀行普通預金

店番号・1111

口座番号・5519371

口座名・千葉県立千葉高等学校

同窓会会長 霜 禮次郎

葛城だより

◎平成十九年度受章者

心からお祝い申し上げます。

瑞宝小綬章 泉谷 徹(昭26)

瑞宝小綬章 高梨義雄(昭28)

瑞宝小綬章 大塚英子(昭28)

瑞宝中綬章 大越誠一(昭30)

旭日双光章 井上雄元(昭31)

◎逝去者(役員・理事)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ご連絡者のみ掲載

市原種蔵(昭2) 逝去日不明

平方 昇(昭7) 逝去日不明

加地禮太(昭8)

平成19年10月4日

吉野平八郎(昭8) 逝去日不明

古川清房(昭15)

平成19年5月10日

早山卓夫(昭17) 平成19年12月

古谷和夫(昭20-5)

逝去日不明

大塚寛一(昭28) 逝去日不明

平成18年9月14日

山本秋弘(昭29) 逝去日不明

山浦牧子(昭39) 逝去日不明

〈敬称略・卒業年順〉

編集後記

成人の日に、流通経済大柏高校が全国制覇を成し遂げました。日々の厳しい練習に耐えて目標を達成したことに拍手を送りたい。

県立千葉高校サッカー部は、新人大会二回戦、十三日八千代高校で、木更津総合高校に0対1で敗れ、シード権を手に入れることができなかった。

確かにベスト32は相対的に弱いかも知れない。しかし、現役部員が最後まで諦めずにボールを追い続けたことをOBの皆様に報告したい。現役生は、練習試合が終わると、すぐに着替えて模擬試験を受けに行く。今も昔も変わらない。

私は現役生を誇りに思いますし、絶対的な勝者だと信じる。

石川恭史(昭53)

今年度も多くの方々へ原稿執筆にご協力頂き、誠にありがとうございました。

五木田 純(昭48)